

の成長を

子のやる気 親の気づき

〇〇43



12月も中旬、受験生は徐々に志望校が決まり始めました。そんな中、学校での三者面談で親子の見解が異なるケースが続いています。親御さんは「子どももやりたいことをやらせたい」、本人は「やりたいことはまだはっきりとは決まっていま

褒め言葉

せん」と話します。私はまず、人は経験、つまり繰り返しで「したい」と思うようになることもあると話します。勉強すべきと考えてみても勉強したいと思えないことがあったり、いつも一緒にいるうちにいつも一緒にいたいという思いになったりするとはないかと。もし小学校からの経験でつまずきを乗り越えてきたことが

「当たり前」を見続ける

「ちよい褒め」でやる気を



by yoriko

け、兄ちゃんにいじめられると泣きついたり、じつと親を見て心に留めておくと伝えているから、それはいじめた親から自分と向き合おうと声を掛けられる「ちよい褒め」で、子どもは夢に向かって取り組みたいと思うようになるものです。(畑山篤志学塾塾長)

あれば、それは君の財産だとも話します。小学校低学年では「できないこと」より「できること」が多いため、勉強をするのも楽しみです。学年が進むにつれ、百点が少なくなります。中学校では通信簿から5が減っていきます。でも元気だから、でも足が速いからと、勉強以外のできることに熱中していきはります。しかし、ゆとり教育世代の多くの子は「できないこと」が「できること」が面倒くさい」と言います。子育ての中で、親は

子に、できないときのやり直しをどのようにやらせてきたのでしょうか。かわいそうだから、やってあげた方が早いから...そう考えて手間を省いてきたとしたら、子はつまずきを乗り越えるチャンスを失ってきたのかもしれない。私は20年ほど前にある塾生の母親から聞いた子育ての話が忘れられません。「子育てはほっとくんです！」と、言い切った後で、「でも言葉は尽くさなくて」と。「子どもは疲れたと言っているのではないと育ててきました。バカと言ったら『バカはバツテン!』としつ

ずはつらつと育ちますやり直しをどのようによね」と。確かに「めんどうくせえ」「つらい」というマインスの言葉の繰り返しを認めているのも大人で、「バカはバツテン!」としつづけるのも大人です。目の前の課題に取り組まない方向の言葉を繰り返しているなら、子は怠惰な自分を認め続けているのかもしれない。

褒める子育ては大切なことだ。だからといって、子どもの成績を点数で褒める親御さんには「それは親がうれしいことを褒めておいてください」と話します。人は当たり前前の子育ての話を続けるこ

学校ICT(信技術)化の小学校への速に進む電子部科学省の「意欲や理する」と肯定する圧力的で、小から電子機器しんだ子ども違和感はない突然配備された。活用は。活用の。はいは。童の手が勢、る神奈川県一小学校の。会科。プロ。型の電子黒板されたのは。凶だ。郊外。る予定の。ど、タッチ。ざまな場所。子どもたち。大・縮小。自由自在。学校何個分校の大きさ切り出して。工場に重ね。方も学習。一番前の帆さん(。板を使うと。しくて分か

教育

でスピードを落とし、金星を包み込んで、金星の周りを回って、上空からいろいろなカメラを使って調査する予定でした。

それなのに、金星を包んで、金星の周りを回って、上空からいろいろなカメラを使って調査する予定でした。

「あかつき」の失敗について記者会見する研究員
12月8日、神奈川県相模原市の宇宙航空研究

発機構

ニュース なぜなに

金星に近づくと、金星の周りを回って、上空からいろいろなカメラを使って調査する予定でした。

金星に近づくと、金星の周りを回って、上空からいろいろなカメラを使って調査する予定でした。

